

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	MC L 盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人龍澤学館

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数 ※令和8年度～

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科		100単位	7単位	
	こども未来学科		82単位	7単位	
	ソーシャルワーク学科		143単位	13単位	
商業実務専門課程	医療事務学科		42単位	7単位	
	医薬品アドバイザー学科		75単位	7単位	
文化・教養専門課程	スポーツ健康学科		62単位	7単位	
(備考) ※令和7年度以前の時間管理情報について、次ページに追記いたします					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web サイト : https://tatsuzawa.ac.jp/information

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数 ※令和7年度生まで

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の授業時数又は単位数	省令で定める授業時数又は基準単位数	配置困難
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	夜・通信	1891 時間	160 時間	
	こども未来学科	夜・通信	1720 時間	160 時間	
	社会福祉学科	夜・通信	2307 時間	240 時間	
	心理福祉学科	夜・通信	3576 時間	320 時間	
	ソーシャルワーク学科	夜・通信	4025 時間	320 時間	
商業実務専門課程	医療事務学科	夜・通信	1231 時間	160 時間	
	医薬品アドバイザー学科	夜・通信	1200 時間	160 時間	
文化・教養専門課程	スポーツ健康学科	夜・通信	975 時間	160 時間	
(備考)					

(備考)
学校教育法施行規則改正の附則第2条（経過措置）に基づき、「単位時間」を用いているため、該当年次生については単位時間数で記載しております。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	MC L盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 龍澤学館

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Web サイト：<https://tatsuzawa.ac.jp/information>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社顧問	2025.5.27～2029.5.26 (4年)	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
非常勤	会社相談役	2025.5.27～2029.5.26 (4年)	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
非常勤	会社取締役頭取	2025.5.27～2029.5.26 (4年)	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
非常勤	会社取締役会長	2025.5.27～2029.5.26 (4年)	産業界からの人材 育成に対するアド バイス
非常勤	元高等学校校長	2025.5.27～2029.5.26 (4年)	教育経験に基づい た教育事業に対す るアドバイス
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	MC L 盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人龍澤学館

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 当該学年が新年度を迎える前年度の 12 月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て 1 月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3 月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。 4 月、新年度の各学科の授業開始までに、「学生の手引き（履修の手引き）」を用いた履修ガイダンスを実施する。併せて、シラバス（授業計画書）を随時確認できるよう、ホームページ上でも公開している。	
授業計画書の公表方法	Web サイト： https://tatsuzawa.ac.jp/information
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学修成果を評価し、厳格かつ適正に履修認定を実施している。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上。もしくは、全体出席率 3 分の 2 以上。 ・受講態度 各科目における最終評価は 5 段階（秀・優・良・可・不可）もしくは 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各学生が年度末までに得た成績評価を数値化し、総受講科目の合計値を求め受講科目数で除して得られる数値を、学生の「個別評価平均値」として算出し、学科内での成績分布状況を把握する際の指標とする。 ※成績評価を受ける前の段階において、成績の分布状況を把握する必要がある際には、小テストや模擬試験等の得点をもとに学科内の平均点や個別の総得点を算出し、指標とすることもある。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	Web サイト：https://tatsuzawa.ac.jp/information
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 各学科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーは、学科教員間で検討した原案を基に、学内会議で協議したうえで承認されたものを、（学生の手引きへ掲載・配布及び履修ガイダンスを通じて）学生へ周知している。また、これらの内容については、随時確認できるようホームページ上でも公開している。 卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定している。 《ディプロマポリシー》 ・専門分野の知識と技術を正確に習得している ・社会人としてのマナーを体得・実践している ・生命に対する尊厳と真の優しさを身につけている	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	Web サイト：https://tatsuzawa.ac.jp/information

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	MC L 盛岡医療福祉スポーツ専門学校
設置者名	学校法人龍澤学館

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	Web サイト： https://tatsuzawa.ac.jp/information
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	100 単位	88 単位	0 単位	12 単位	0 単位	0 単位
			100 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70 人		43 人	22 人	3 人	17 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、教務課長・主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、厚生労働省から定められている「教育に含むべき事項」を反映させ、さらに検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度

各科目における最終評価は 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定については、卒業年次の 1 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については 3 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
（概要） 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、障がい者支援施設			
（就職指導内容） ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 介護養成校と社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） 介護福祉士受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	2 人	6.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	こども未来学科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	82 単位	34 単位	38 単位	10 単位	単位	単位
			82 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		20 人	0 人	6 人	33 人	39 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 当該学年が新年度を迎える前年度の 12 月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て 1 月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、教務課長・主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3 月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定については、卒業年次の 1 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については 3 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
(概要) 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (94.7%)	1 人 (5.3%)
(主な就職、業界等) 第二山王保育園、なでしここども園、アイリス保育園、しいのみホーム（就労支援） みちのく・みどり学園（児童養護施設）、こぱんはうす（発達支援センター）など			
(就職指導内容) ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 幼稚園連合会や保育所連合会との連携（意見交換会への参加） ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭二種免許状			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	2 人	6.5%

（中途退学の主な理由） 該当なし
（中退防止・中退者支援のための取組） 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	社会福祉学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,562 時間	1,894 時間	356 時間	312 時間	0 時間	0 時間
			2,562 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
30 人		3 人	0 人	2 人	29 人		31 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 当該学年が新年度を迎える前年度の 12 月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て 1 月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、教務課長・主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3 月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定については、卒業年次の 1 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については 3 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
(概要) 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 高齢者や障がい者等の福祉施設			
(就職指導内容) ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ 福祉の職場ガイダンス（社会福祉学科対象） ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 社会福祉士受験資格、介護職員初任者研修			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	2 人	14.3%

(中途退学の主な理由) 家庭事情等
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、複数教員による声がけ、保護者との面談を行っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	心理福祉学科	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	3,577 時間	2,847 時間	410 時間	320 時間	0 時間	0 時間
			3,577 時間				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		14 人	0 人	2 人	34 人	36 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 当該学年が新年度を迎える前年度の 12 月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て 1 月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、教務課長・主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3 月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
(概要) 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定については、卒業年次の 1 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については 3 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
(概要) 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100.0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 精神科病院、障害者支援施設等			
(就職指導内容) ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 精神保健福祉士・社会福祉主事・児童福祉司・知的障害者福祉司・介護職員初任者研修			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	2 人	8.7%

(中途退学の主な理由) 体調不良・進路変更
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	ソーシャルワーク 学科	—	R10 年度 申請予定		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	147 単位	118 単位	9 単位	14 単位	0 単位	6 単位
			147 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		38 人	0 人	2 人	27 人	29 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 当該学年が新年度を迎える前年度の12月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て1月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、教務課長・主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は4段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定については、卒業年次の1月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については3月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。

学修支援等
(概要) 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定、国家試験等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (—%)	— 人 (—%)	— 人 (—%)	— 人 (—%)
(主な就職、業界等) 高齢者や障がい者等の福祉施設、精神科病院、障害者支援施設 等を想定			
(就職指導内容) ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワーク、福祉の人材センター（社協）との連携 ・ 社協との連携 ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 精神保健福祉士・社会福祉主事・児童福祉司・知的障害者福祉司・介護職員初任者研修			
(備考)（任意記載事項） 2025 年度新設学科			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	2 人	8.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更・体調不良等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業実務		商業実務専門課程	医療事務学科		○	—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	60 単位	22 単位	8 単位	0 単位	0 単位
			90 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		22 人	0 人	1 人	5 人	6 人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
（概要） 当該学年が新年度を迎える前年度の 12 月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て 1 月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、各学科の教務主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3 月）。 シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。							
成績評価の基準・方法							
（概要） 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。							
卒業・進級の認定基準							
（概要） 卒業認定については、卒業年次の 1 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については 3 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。							

学修支援等
(概要) 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 医院、歯科医院、調剤薬局、ドラッグストア			
(就職指導内容) ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワークとの連携 ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医科医療事務管理士技能認定試験、歯科医療事務管理士技能認定試験、調剤事務管理士技能認定試験、Excel 表計算処理技能認定試験、文書処理能力検定試験、秘書技能検定、POP 広告クリエイター技能審査試験、介護保険事務管理士、医師事務作業補助者、登録販売者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	1 人	5.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更等		

学修支援等
(概要) 学科担任制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
— 人 (—%)	— 人 (—%)	— 人 (—%)	— 人 (—%)
(主な就職、業界等) ドラッグストア、調剤薬局を想定			
(就職指導内容) ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワークとの連携 ・ 職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ (学科担当) 就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ (学科担当) 就職ガイダンス (学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など) ・ (学科担当) 集団模擬面接指導 ・ (学科担当) 職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 登録販売者、調剤事務管理士、			
(備考)（任意記載事項） 2024 年度新設学科（2024 年 4 月入学者なし、2025 年 4 月より入学者受入）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行うこととしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	スポーツ健康学科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	62 単位	23 単位	0 単位	3 単位	0 単位	36 単位
			62 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		35 人	0 人	3 人	11 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 当該学年が新年度を迎える前年度の 12 月までに、カリキュラムの変更案について教務担当者間で協議し、学内会議を経て 1 月の理事会に諮る。これにより承認されたカリキュラムを基に、シラバス（授業計画）案を各科目担当者が作成し、教務課長・主任が取りまとめて確認したうえで、学内会議での承認を得る（1～3 月）。シラバス（授業計画）案の作成にあたっては、検討委員会で協議し決定したガイドラインおよび共通フォーマットを提示することにより、必要記載事項がもれなく適切に記載されるよう留意する。
成績評価の基準・方法
（概要） 各授業科目の特性に応じ、以下の項目のいずれか（複数項目の場合には、項目間の評価割合を規定する場合もある）により、学習成果を評価する。 ・評価対象となるテストの得点率 60%以上 ・課題提出の提出状況および内容の完成度 ・検定試験結果 ・全体出席率 90%以上で、かつ、科目出席率 80%以上 ・受講態度 各科目における最終評価は 4 段階（A・B・C・D）とし、不可（D）の評価を得た際には、当該科目の履修修了要件を満たさないものと判定する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定については、卒業年次の 1 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、卒業認定委員会での審議を経て学校長が決定する。また、進級認定については 3 月末までに得た成績評価および学費納入状況を踏まえ、進級認定委員会での審議を経て学校長が決定する。
学修支援等
（概要） 学科担当制をとり、入学時及び必要に応じ随時、学生面談、保護者面談、三者面談を実施している。また、実習、検定等に関わる個別の事前・事後指導を行っている。学校以外の生活についても、アルバイト先の把握等を行い、適切に指導している。また、相談室を設置し、スクールカウンセラーによるカウンセリング受診の体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数			
	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (83.3%)	2 人 (16.7%)
（主な就職、業界等） スポーツジム・フィットネスジム・スポーツメーカー			
（就職指導内容） ・ 求人票の受付と、学生への公開 ・ 個別面接練習 ・ ハローワークとの連携職場開拓（就職担当、学科担当） ・ 就活相談（要望に応じて、適宜） ・ （学科担当）就職研究授業（職場研究、自己分析、履歴書の書き方） ・ （学科担当）就職ガイダンス （学生と保護者対象、就職オリエンテーション、先輩講話など） ・ （学科担当）集団模擬面接指導 ・ （学科担当）職場訪問・見学・ボランティア・インターンシップの事前事後指導			
（主な学修成果（資格・検定等）） JATI-ATI、SAQ レベル1 インストラクター、GFI-ADI（エアロビックダンスエクササイズインストラクター）、JFA 公認キッズリーダー			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 本人との日常的面談、相談室利用の斡旋、複数教員による声かけ、保護者との面談を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
介護福祉学科	100,000 円	590,000 円	452,000 円	施設設備費、維持費、補助活動費
こども未来学科			412,000 円	
社会福祉学科			446,000 円	
心理福祉学科			391,000 円	
ソーシャルワーク 学科			405,000 円	
医療事務学科			482,000 円	
医薬品アドバイザー 学科			388,000 円	
スポーツ健康学科			458,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) Web サイト： https://tatsuzawa.ac.jp/information		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
※当面は学校関係者評価委員会の実施とする。実施方法・体制は以下のとおり。 学校関係者として関係施設等から参画いただいた委員を含む学校関係者評価委員会を設置して、実務に関する知見を活かして教育目標や教育環境等について評価を実施し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善に活かしていく。評価結果は、委員会終了後に学内委員会で検討し、実施時期等を決定し改善している。構成は、委員長1名、副委員長1名、専門委員2名以上、評価委員3名以上、書記1名とする。年に1回、事前に自己評価・自己点検の結果等関係資料を送付した上で、委員会を開催している。		
第三者（学校関係者）評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人岩手県社会福祉士会	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (2 年)	関係施設役職員
株式会社システムエイド	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (2 年)	関係施設役職員
公益財団法人盛岡市スポーツ協会	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (2 年)	関係施設役職員
学校法人聖公会盛岡こひつじ学園 仁王幼稚園	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (2 年)	関係施設役職員

医療法人楽山会はまゆり在宅介護支援センター	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (2 年)	本校卒業生
第三者（学校関係者）評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
Web サイト： https://tatsuzawa.ac.jp/information		
(備考)		
※第三者評価未実施		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://www.morii.ac.jp/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。